

事業所名

多機能型事業所こーず

支援プログラム (参考様式)

作成日

2026年

1月

28日

法人 (事業所) 理念	事業に関わる全ての人の想いと幸せの貢献を追求し、選択理論を基にした、仕組みづくりと関わり合いの内実を大切にすることで、人が人らしく生きられる社会を目指します 人間理解と関係性の構築						
支援方針	障がい者及び障がい児が基本的人権を享有する個人として尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービス事業、地域生活支援事業その他の支援を行うことあります。これにより、障がい者及び障がい児の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目指しています。						
営業時間	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり (指定地区があります)	
	支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	日々の療育の中で、心と身体の健康を維持・増進に努め児童の健康状態の常なるチェックを行います。また、「靴をそろえる」「検温をする」「手を洗う」「荷物を片付ける」「排泄をする」「食事をする」などの基本的な生活スキルの向上を目指し、施設外での社会体験活動を取り入れ、それぞれの子供に適した身体的、精神的、社会性訓練を行います。					
	運動・感覚	「体操教室」「トランポリン・平均台」「リズムダンス」「ビジョントレーニング」の4つの運動を行いながら、スマールステップで「できた」の達成感を目指します。その中で子どもたちが楽しみながら 自然に運動能力を身につけ、達成感や意欲を育んでいきます。それで、運動遊びを通じて基礎的な能力を身につけることができます。 それにより、書字能力の向上、姿勢保持の改善、衝動のコントロールなどを身につけられることが期待されます。					
	認知・行動	運動遊びは数の認知・空間認知・事故能力の認知の助けになります。外部環境を主に視覚、聴覚、触覚から認知し、状況に合わせた行動をコントロールすることで、日常の生活にも役立つことが期待されます。○○をしながら××をするなど、同時に複数の課題をクリアすることで、脳の同時処理機能を養います。目標を果たすために順序だてて課題をクリアしていく力を「実行機能」といいますが、実行機能は「認知機能」との呼ばれ、何かを理解したり、判断したりするときに働きます。					
	言語 コミュニケーション	SST (ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、社会の中で暮らしていくための適応力の獲得を目指します。 対人場面において、相手に適切に反応するためには、「あいさつ」「自分の事を解ってもらう」「相手のことを知る」「上手な聞き方」「気持ちを解ってはたらきかける」など、様々なスキルを重ねさせていく必要があります。一人ひとりの特性に合わせた個別の支援計画に基づき、言語的・非言語的なコミュニケーションを獲得する為に支援を行います。					
	人間関係 社会性	異年齢で運動遊びを行うことにより、年齢や能力に合わせたコミュニケーション方法やルールなどを考えることになります。そのことにより、複数の物の見方を養う事が可能です。 周囲の子供たちと遊ぶ事が苦手なお子様も、ルールを工夫することで段階的に集団遊びにも参加できるように支援します。 ルールや言葉を理解する力・他人と協調する力を養う 勝ち負けのある遊びを行うことで、ルールを理解する力、言葉を理解する力、他人と協調する力、などを養います。					
家族支援	施設に談話室（相談室）を設けています。 当施設の職員にお母さんお父さんのお話（家の困りごと、将来の不安など）お聞きします。解決の糸口と一緒にみつめましょう！！			移行支援	新たな施設に移行する場合、慣れている支援員や家族と移行先の見学をする移行先に慣れるため、短い時間過ごすといった段階的な進め方を行います。また、段階的な取り組みを進めていく中で子供の反応や家族・移行先の意見を聞きながら進め方を微調整していきます		
地域支援・地域連携	地域の各種団体や自治体、学校などが協力して、誰もが平等に参加できる環境を整備し、支援を充実させる			職員の質の向上	福祉系国家資格取得の推進し職員に対し取得補助します。また、大分県社会福祉協議会及び大分県・大分市が行う研修会の定期的参加を行い、専門性の向上や知識向上を行っていきます		
主な行事等	夏祭り、夏のオリエンテーション（外出行事）、海水浴						

支援方針

障がい者及び障がい児が基本的人権を享有する個人として尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービス事業、地域生活支援事業その他の支援を行うことあります。これにより、障がい者及び障がい児の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目指しています。



心身機能・構造

運動・感覚

「体操教室」「トランポリン・平均台」「リズムダンス」「ビジョントレーニング」の4つの運動を行いながら、スマールステップで「できた」の達成感を目指します。その中で子どもたちが楽しみながら、自然に運動能力を身につけ、達成感や意欲を育んでいきます。それで、運動遊びを通じて基礎的な能力を身につけることができます。それにより、書字能力の向上、姿勢保持の改善、衝動のコントロールなどを身につけられることができます。



個人因子

運動遊びは数の認知・空間認知・事故能力の認知の助けになります。外部環境を主に視覚、聴覚、触覚から認知し、状況に合わせた行動をコントロールすることで、日常生活にも役立つことが期待されます。○○をしながら××をするなど、同時に複数の課題をクリアすることで、脳の同時処理機能を養います。目標を果たすために順序立てて課題をクリアしていく力を「実行機能」といいますが、実行機能は「認知機能」との呼ばれ方、何かを理解したり、判断したりするときに



健康状態

健康・生活

日々の療育の中で、心と身体の健康を維持・増進に努め児童の健康状態の常なるチェックを行います。また、「靴をそろえる」「検温をする」「手を洗う」「荷物を片付ける」「排泄をする」「食事をする」などの基本的な生活スキルの向上を目指し、施設外での社会体験活動を取り入れ、それぞれの子供に適した身体的、精神的、社会性訓練を行います。



活動

SST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、社会の中で暮らしていくための適応力の獲得を目指します。

対人場面において、相手に適切に反応するためには、「あいさつ」「自分の事を解ってもらう」「相手のことを知る」「上手な聞き方」「気持ちを解ってはたらきかける」など、様々なスキルを重ねさせていく必要があります。一人ひとりの特性に合わせた個別の支援計画に



参加

異年齢で運動遊びを行うことにより、年齢や能力に合わせたコミュニケーション方法やルールなどを考えることになります。そのことにより、複数の物の見方を養う事が可能です。周囲の子供たちと遊び事が苦手なお子様も、ルールを工夫することで段階的に集団遊びにも参加できるように支援します。

ルールや言葉を理解する力・他人と協調する力を養う、勝ち負けのある遊びを行うことで、ルールを理解する力、言葉を理解する力、他人と協調する力、などを養います。

移行支援

新たな施設に移行する場合、慣れている支援員や家族と移行先の見学をする移行先に慣れるため、短い時間過ごすといった段階的な進め方を行います。また、段階的な取り組みを進めていく中で子供の反応や家族・移行先の音を聞きながら進め方を微調整します。

職員質の向上

福祉系国家資格取得の推進し職員に対し取得補助します。また、大分県社会福祉協議会及び大分県・大分市が行う研修会の定期的参加を行い、専門性の向上や知識向上を行っていきます。

